

【大塚孝治東京大学名誉教授による追悼文】

有馬朗人先生がお亡くなりになりました。1930年大阪市生まれで、東京大学にて学位取得後、東京大学を拠点にしつつ世界各地で研究・教育に励まれ、原子核物理学の黎明期から数々のご業績を残されました。殻模型には誕生の直後から関わり、堀江久先生とともに配位混合理論により、磁気モーメントの異常性などの説明に成功しました。1949年のメイヤー・イェンゼンの殻模型提唱からわずか5年後のことでした。芯偏極に基づく今日の有効相互作用理論の礎にもなっています。



在りし日の有馬先生（米寿をお祝いする会にて）

大規模な殻模型計算を始められ、日本におけるこの分野の源流を作られました。アルファクラスターやスピンアイソスピン励起モードなどにも業績を残され、さらに1967年に出されたアイデアを基に1974年からはF. Iachello教授らとともに相互作用するボソン模型を提唱発展させて、集団運動の研究に大きな貢献をされました。その間、仁科記念賞、ポナー賞、日本学士院賞、文化勲章などを受賞されています。多くの研究者を育てられました。東京大学総長や文部大臣なども歴任され、我が国の教育や学術研究一般の発展にも尽力されました。

科学研究費の大幅な拡充から、大学院重点化、ゆとり教育などまで、足跡には大きな発展が数多くあります。理化学研究所の理事長として現在の仁科センターやBNLとのプロ

プロジェクトの発展にも寄与されています。また、俳句に新しいスタイルを持ち込まれ、天為俳句会を主宰し、蛇笏賞を受賞されています。このような多くのご業績を残され、今もなお、現役として国の大学への財政負担増強の活動などで学術・教育の発展に尽力されていました。120歳まで生きると常々おっしゃっていましたが、まことに残念ながらそれは叶いませんでした。
これまでのご活動に感謝申し上げます、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

*掲載させていただきましたお写真については 写っている方々よりご了承をいただいております。